

Economic Indicators

発表日: 2023年7月7日(金)

景気動向指数(2023年5月)

～CI一致指数は一進一退での推移が続く～

第一生命経済研究所

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

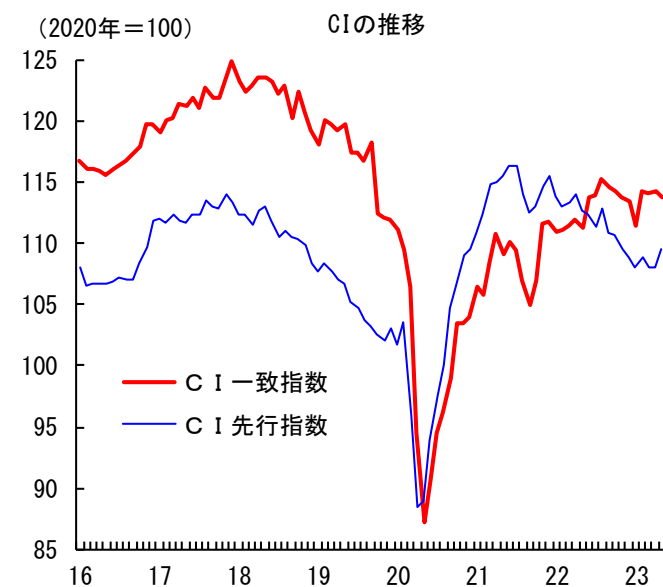
(TEL: 050-5474-7490)

CI一致指数は一進一退

内閣府から公表された2023年5月の景気動向指数では、CI一致指数が前月差▲0.4ポイントとなった。内訳では、耐久消費財出荷指数や卸売業販売額などがプラス寄与になる一方、輸出数量指数や鉱工業生産指数などが押し下げ要因となり、CI全体では小幅低下となっている。

CI一致指数はこのところ前月差でプラスとマイナスを繰り返しており、方向感に欠ける動きとなっている。昨年秋以降、均してみればほぼ横ばいでの推移が続いている状況に変化はみられない。

なお、景気動向指数は今回より基準年が、これまでの2015年から2020年に変更になっているが、CIの推移に旧基準から大きな変更はみられなかった。



(出所)内閣府「景気動向指数」

基調判断は「改善」維持も、先行きには不透明感

5月のCI一致指数の基調判断は、4月に続いて「改善」となった。4月の基調判断は、速報段階では「足踏み」だったが、鉱工業指数の基準改定結果などが反映された改訂値(6/26公表)において「改善」に上方修正されていた。5月はこの判断が継続する形になっている。

もっとも、「改善」判断継続とはいえ、前述のとおり足元では一進一退の横ばいでの推移が続いており、3ヶ月後方移動平均前月差も今回は▲0.14とマイナスに転じるなど、停滞感が残る形となっている。また、先行きについても、当面回復感に欠ける状態が続く可能性が高いだろう。CIと関係が深い製造業部門の動向を展望すると、供給制約の緩和による挽回生産で自動車生産は好調に推移する可能性が高い一方、海外経済の減速に伴う輸出の下振れが足を引っ張ることが予想され、全体としてみれば当面足踏み状態から脱することは難しいだろう。当面、基調判断は「改善」が継続するとみられるが、輸出動向次第では夏～秋頃に再び「足踏み」に下方修正される可能性もあるだろう。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。